

【Team8】筑波大学で世界中に 友達をつくろう (12061A)

や た べ はるか
谷田部 遼 (体育専門学群 4年)



一番上が執筆者

つくばにいても世界に触れる機会はたくさんある

世界一周に挑戦したり、留学してみたり。筑波大学の中には海外に夢を抱く学生はたくさんいると思いますが、日本国内の、この筑波大学の中でも、世界に触れられる機会はたくさんあるのです。

筑波大学には、世界中のさまざまな国からたくさんの留学生がきています。しかし、現実としては留学生と日本人学生の交流は十分とは言えず(学群によるのかもしれませんが)、実際に私もTeam8で活動するまでは留学生の友達は1人もいませんでした。日本人学生の「留学生と友達になりたいけど、機会がない」「英語ができないけど、友達になれるのかな」といった悩みや不安は私も経験がありましたし、今はそんな気持ちを抱える後輩を応援したいと考えています。

Team8では、「お互いの国に遊びに行けるくらい、深い友情を築こう」ということを理念とし、留学生と日本人学生の交流活動を行っています。主な活動としては、共同で情報誌の作成を行ったり、日本文化を紹介するようなイベントや交流会を企画したりしています。また、最近では留学生センターで開設されたウェルカムデスクにも参加し、留学生の悩み相談にも対応したりしています。情報誌の制作やイベントの企画は、日本人学生だけでなく、留学生にも主体的に関わってもらい、一緒に「ものづくり」をする中で深いつながりが築けるような活動を目指しています。

つくばで1年間過ごして、41ヶ国に友達ができた

活動を通して得たことは、英語やコミュニケー

ション力、度胸、勇気、実行力などさまざまなことが挙げられますが、一番自分の財産になっているのはやはり、「友達」だと思います。昨年1年間を振り返ってみても、友達と企画して活動してきた日々はかけがえのない宝物であり、その中でこそ多くのことを学んできたのです。異文化・異分野の友達から学ぶことは多いですし、将来ずっとつながっていける関係を築いていき、10年後に再会することが非常に楽しみです。

仲間と一緒に苦勞も乗り越えられる

時には楽しいことだけではなく、悩み苦しむこともありました。異文化の人々をまとめてイベントなどを行う、といった大変さはもちろん予想されることですが、「一緒に活動する仲間をつくること」もまたとても大切なことなのだと学びました。日本人学生側のモチベーションを保つこと、イベントなどでの運営側にあたる人材を探し育てることは思っていた以上に難しく、今もまだ悩みながら試行錯誤している段階です。

しかし、悩んだ時こそ手を差し伸べてくれる仲間や、温かい声をかけてくれる友達の大切さに気づけるものです。オーガナイザーになることで苦勞することはあるかもしれませんが、問題の中から発見や成長が見つかることもありますし、壁にぶつかった時にはきっと助けてくれる仲間が現れるはずですよ。

筑波大学は自分次第でどんなことにも挑戦できる場所だと思います。留学生も日本人学生も、この美しいつくばで素敵な思い出を作ってください。



台湾人留学生が中心になって
北条祭りで台湾料理店を出店！



桜が綺麗な季節は花見をしながら
食事やゲームを楽しみました